



私の  
なんとか  
しなきゃ!

Vol. 31

人とのつながりから生まれる

タレント 藤岡みなみ

FUJIOKA Minami



© Atsushi Shibuya

PROFILE

1988年東京都出身。東京都立国際高等学校、上智大学総合人間科学部社会学科卒業後、タレント・歌手として活動。ジャイアントパンダ研究家。2010年よりNHK「穴場ハンター」にレギュラー出演。公益財団法人緑の地球防衛基金のプロジェクト「Team Shokurin」SHOKURIN応援団。「なんとかしなきゃ!プロジェクト」著名人メンバー。

高校受験の時、当時は都内でも珍しかった国際学科がある学校を選びました。と言っても、海外に特に興味があったわけではなく、中学生のころからあこがれていたチアリーディングの部活動に没頭する日々。周りには留学したり、ボランティアをしたりする人もいましたが、「世界を救わなきゃ!」なんて言葉が、私の中ではどうしてもしっくりこなかった。高校生にとって“世界”はあまりにも大きく感じられたし、日本にもまだまだ大変なことがたくさんある中で、私たちができることなんてないんじゃないかと思っていました。

そんな私の転機となったのは、大学に入ってから参加した中国へのスタディーツアーでした。都市から農村に入ると景色は一変。大自然が広がっていて、みんな馬で移動していました。自然に溶け込んでいる彼らを目の当たりにして、東京の生活ってなんて希薄なんだろうって一。恥ずかしくなりました。帰国後はいてもたってもいられなくなって、電車を使わず、自宅から大学まで2時間かけて歩い

て通うようになりました。周りからは、ちょっとおかしな子と思われていたかもしれませんが。

それをきっかけに、アジアに一人旅をするようになりました。最初のころは、文化の違いなど心を突き動かされることがいっぱい。でも次第に、一つ一つのちょっとした発見こそが、かけがえのないものを感じられるようになりました。

そして今年の2月には、バングラデシュとネパールで日本のNGOの活動を視察するお仕事をいただきました。実は、国際協力の現場に足を踏み入れるのは初めて。一人で旅をしている時には触れることのできない世界でした。

そこには、地元の人たちと寄り添いながら、日本人女性がバワフルに、生き生きと活動している姿がありました。そしてやっと、長年私が抱えてきた“疑問”の答えを見つけたのです。国際協力に携わる人たちは「世界を救おう」と思っているわけではない。彼らが守りたいのは、今ここにいるこの人たちなんだ。国際協力は、個人と個人の“縁”や“つな

がり”から生まれ、現場の人たちの優しい思いに支えられた活動なのだと気付かされました。

スラムに行く前はとても緊張していましたが、日本人スタッフの方に「楽しんでいいんだよ」と言われて、とても気持ちが楽になりました。子どもたちは元気いっぱい、一緒に笑ったり、走り回ったり、逆に私がパワーをもらったくらいです。そこには、私が勝手に思い描いていた“かわいそうな”スラムはありませんでした。

自分の知らない世界と出会えると、とてもワクワクします。私はこれからも開発途上国と等身大で向き合い、そこに散りばめられている“おもしろいこと”を、皆さんに伝えていけたらと思っています。

「なんとかしなきゃ!プロジェクト」は、開発途上国の現状について知り、一人一人ができる国際協力を推進していく市民参加型プロジェクトです。ウェブサイトやFacebookの専用ページを通じて、さまざまな国際協力の情報を発信していきます。

なんとかしなきゃ で 検索